



wakaba

通信

わかば

「嬉しそうなお母さん」

母の日にご家族から素敵なプレゼント

特別養護老人ホーム

あつとほ一む若葉



URL : <https://www.homewakaba.com>





サービスできない期間を乗り越え

デイサービスセンターあつとほーむイースト



イースト再開まで

能登半島地震発生後、なんとか職員が集まり、みんなの顔を見られたのも束の間、あつとほーむイーストは変わり果てていました。

駐車場は陥没、床にはヒビが入り物は散乱。唾然としました。

何より断水。「入浴は?」「トイレは?」「これからどうなるのだろう...」いろいろな気持ちが押し寄せました。

幸いにも近所の方から井戸水を分けて頂き、バケツリレーをし「トイレに使用できるよね」などと浴槽に水をためていましたが、合併処理槽が破損し、排水が出せない状況がわかりました。トイレ、手洗いも使用できないため、再開が未定となっていました。

それからは調理員も含め、イーストの職員は、あつとほーむ若葉の応援勤務となりました。正直、慣れない場所ということもあり毎日が大変でした。

「あつとほーむ若葉のホールで再開できる」そのお話を聞いたときは、嬉しくもあり「イーストらしくできるのか?」と大きな不安が頭をよぎりました。ですが、ここからはやるしかないのです。物品を運び、利用者さんが横になれるスペースも用意して、2月13日に再開を迎

えました。利用者さんも職員も慣れるまでは試行錯誤しながら1日1日を過ごしていきました。

さらに、「イーストに戻る」この話を聞いたときは「あと〇日」とカウントダウンをしながら待ちわびていました。

6月3日、あつとほーむイースト再開となります。

「戻れてよかったね」利用者さん同士の会話が聞こえ職員も同じ気持ちでした。

「この状況を乗り越えるべく、イースト一致団結し、この未曾有の危機を乗り越えましょう」1月2日に達センター長からスタッフラインに送られてきた言葉です。地震を機にイースト職員全員が一つになれたと思います。

イーストが大田町で再開し、現在では職員、利用者さんともに毎日笑顔で過ごしています。

まだ余震もあるため、気を緩めることはできません。

毎日を当たり前と思わず、ここで働けることに感謝し、あつとほーむイースト、これからも「成長」していきます。

ご支援頂いた皆様、ありがとうございます。

養護への受け入れ活動



能登地方では大地震の発生に伴い、介護施設や居住する家屋が損壊し、さらに電気・水道が不通になり、ご自宅で生活が続けることや、施設で介護を受けることがままならない高齢者の方々が多くいらっしゃいました。

生活の場を失った方々は、親族の家や、金沢市にあるスポーツセンターの1.5次避難所、福祉避難所など、様々な場所に身を寄せている状況でした。

ご高齢の方や介護が必要な方の場合、なるべく早く適切な施設に移動することが健康状態の悪化や介護度の悪化の防止に繋がります。

養護老人ホームあっとほーむ若葉は、幸い早期に復旧することができたため、被災した介護施設や七尾市をはじめとする市町、石川県、避難所内に設置されたサポートセンター等と連携し、高齢者の方々が安心安全に生活ができるよう環境を整えて、1月初旬より受け入れを行ってきました。

避難所や市町も多忙を極め混乱しており、情報量が少ない中で、受け皿としてできるだけ速

やかに対応することが求められました。

受け入れた殆どの方に介護が必要でした。当初は、震災による心労が出たり、住み慣れた地域を離れ、故郷に帰りたいという思いから、新しい環境に戸惑う方もおられましたが、現在は落ち着いて生活をしておられます。

同じ能登半島の地にすることができて、感謝される利用者さんもいらっしゃいました。現在は心身への配慮、生活のサポートや手続きのお手伝いなどを行いながら、他の利用者さんとの交流を深めて頂いています。また、必要な介護サービスが受けられるよう各事業所と連携をしています。

引き続き受け入れを行い、今後も社会のセーフティネットとしての役割を果たしたいと思っています。

養護での受け入れ (R6. 7月末現在)

1.5次避難所より5名 2次避難所より1名
高齢者施設より11名 医療機関より1名
在宅より4名 計22名

あっとほーむコモド

地震発生後、安全が確保できるまで地域のコミュニティセンターへ避難させていただきました。限られた広さの中、同じく避難されていた地域の方々が、介護を必要とする利用者さんに温かく場所を譲って下さいました。

また、地域の民生委員さんや、コミュニティセンターの職員さんが、温かいお味噌汁とおにぎりを作って提供して下さい、私達も施設の毛布を持参し、配布しました。

断水が続き厳しい環境の中で、声をかけあって集まった方々と助け合い、10日間同じ時を過ごしました。

避難所にいる間、地域の人たちが心配して声をかけてくれることも多く、また、職員はお一人暮らしのご高齢者の安否確認の協力をし、避難物資を運ぶ手伝い等もしました。

今回の地震を通じ、地域の方々やコミュニティセンターの職員さん、支援に来ていた地域包括支援センターの職員さんと共に支え合うことで関係が深まり、皆様の支援のおかげで困難を乗り越えることができました。

コロナ禍前は、地域の行事に出展したり、施設でイベントや勉強会等を開催するなど地域の方々と交流し、高齢者の社会参加を促進す活動をしておりましたが、今後も絆をより一層深め、地域資源として福祉に力を尽くし、地域の社会課題に貢献したいと思います。



あっとほーむレガール

地震発生時、レガールではサービス付き高齢者向け住宅の入居者さん12名と、小規模多機能型居宅介護施設の泊りサービスの利用者さん4名が過ごされていました。

幸い負傷者も出ず建物の倒壊もなく、ホッとしたのも束の間、大津波警報が発令されました。施設送迎車と職員の自家用車で、あっとほーむ若葉へ避難を試みましたが、1台は避難先へ到着したもののその他の車両は渋滞に巻き込まれ、たどり着けずレガールに戻ったのでした。

今思えば避難先でなく、ご自分のベッドで休んで頂くことが出来ただけでも幸運だったと思います。

断水となり排水設備も損傷したため、通所サービスは一時的に休止せざるをえなくなり、訪問サービスで対応しました。

食事については支援物資を頂き、また、1月下旬に仮設の貯水タンクを設置し、給水支援で何とか3食温かい食事を提供し続けることができました。

入浴が出来ない間は、洗髪・清拭で対応することで大きな体調の悪化もなく過ごして頂くことが出来ました。

ご協力頂いた地域住民の皆様、早期に配達を再開された中島ストア様、ご家族の皆様、ありがとうございました。おかげさまで翌2月から通常に近いサービスを提供する事が出来ました。

今回の経験で得た教訓を今後に活かし、皆様が安心して過ごせる場を継続して提供できるよう努めていきます。



ヘルパーステーションあつとほ一む若葉

令和6年4月から介護事業所では、国によって「BCP(事業継続計画)」の策定が義務化されています。

BCPとは、自然災害や感染症の蔓延等などの緊急事態が発生した場合に備えるために、身体、生命の安全確保に加え、事業を中断させない、または可能な限り短期間で事業が再開できるよう方針・体制・手順を示した計画のことです。

既に法人で5年前よりBCPを策定していましたが、当事業所では、さらに落とし込んで利用者さんの顔写真、家屋写真、居住地マップなどを作成し、訪問介護固有のBCPを整備し、研修をしていました。

今回の大地震ではこの対応方法が機能し、利用者さんの安否確認と状況把握がすばやくできたおかげで、地震発生の翌日から訪問を開始することができました。

また、ヘルパー間で移動ルートや家屋の状況など分かる範囲で情報を共有し、ヘルパーの安全確保にも努めました。

訪問した際には利用者さんから「あんたらも大変なんに来てくれたんね。ありがとうね。」「道ひどかったやろ、大変やったね。」と労いや感謝の言葉を頂き、「来てもらえんかったらどうしようかと思っとった…」と不安な思いも聞かれた時がありました。

利用者さんからの温かいお言葉のおかげで、より一層「頑張ろう!」という気持ちになり、断水の中での介助は大変でしたが、訪問介護を継続することができました。



能登半島地震復興を願って…

ひまわりコンテストを開催しました。

「復興のシンボル」といわれているひまわりを植え、育てたひまわりの大きさや映え写真でコンテストを実施しました。

種は利用者さんから分けて頂きました。

ウエスト・イースト・コモド・レガールで生育したひまわり。

今夏の暑さでどの部署もすくすくと育ち、とても美しい大輪を沢山咲かせ、利用者さんを勇気づけてくれました。

買い物で元気に！
外出サポート

養護老人ホーム



コロナウイルス感染予防のため長らくできなかった外出支援を再開しました。

地域の流行状況を確認し、感染予防対策をしたうえ、少人数で数回に分けて、コンビニエンスストアや衣料品店などへ買い物に行きました。

数日前から久しぶりの外出をとて楽しみにされ、どれにしようかと色々手にしてじっくり選ばれていました。声が弾み、たくさんの商品の中から欲しい物を選ぶことができた、大変喜ばれていました。

道中は、慣れ親しんだ七尾の景色を見て、四季の風や香りを感じ、聞こえる音や歩く感触など五感すべてで楽しんでいらっしやるようにしました。

外出は、普段の生活より体を動かすことで運動不足の解消になり、利用者さんにとって心身がリフレッシュできる大切な機会となります。

今後ご希望を伺いながら、皆様が笑顔で過ごせるよう様々な外出支援を企画していきたいと思ひます。



Photo Album



あっとほ一むレガール
「甘味は皆さんの笑顔の素」



ヘルパーステーション
あっとほ一む若葉
「いつまでも歌唱で輝いて☆彡」



特別養護老人ホームあっとほ一む若葉
「運動で連帯感が生まれた瞬間！」



あっとほ一むウエスト
「青空ピクニック」



養護老人ホームあっとほ一む若葉
「つつじ見散歩」



あっとほ一むコモド
「ご夫婦で日向ぼっこ」

栄養ワンダー

口からはじまる消化と栄養

全国の栄養士が毎年「栄養の日、栄養週間」にあわせて国民の栄養・食事の課題解決のために展開するイベント「栄養ワンダー」。8月にあっとほーむ若葉の管理栄養士も実施しました。

今年はさらに多くの方が参加できるよう資料を工夫し、あっとほーむウエスト、あっとほーむコモドの利用者さんと職員を対象に、食べ物を口からとる大切さや、健康寿命の延伸に関する情報発信と栄養指導を行い、食生活を考える機会とさせて頂きました。

参加した方には特別協賛企業からキウイとヤクルト1000のセットがプレゼントされました。

これからも栄養改善に取り組んでいきたいです。



健やかな毎日のために 「栄養3・3運動」

毎日の食生活と生活習慣病は、大いに関係があります。生活習慣病を予防したり、重症化を抑えたり、改善するために、食生活に注意を払うことは、健やかな毎日のためにとても大切です。ですが、バランスの良い食事を毎日とるのは難しい、と思っていませんか？

そこで、基本的な食生活のあり方を特にわかりやすく示したものが「栄養3・3運動」です。「3・3」は3食・3色を表し、毎日「朝・昼・夕の3食」と、「3色食品群のそろった食事」をとるよう推奨されています。

食生活を振り返り「1日3食、3食品群を」こころがけてみましょう。

「3色食品群」をとりいれましょう



参考サイト：協会けんぽ栃木支部参照

こんにちは
技能実習生

ヒュイン・ティ・テュイ・
ティエン さん



ベトナムからあっとほーむ若葉へ新たにフレッシュな職員が仲間入りしました。技能実習生として今年1月に来日したティエンさんです。

日本に来てすぐに大地震が起き、異国での慣れない生活と震災が重なって不安でいっぱいの日々だったと思います。

そんな中でも笑顔を絶やさず、弱音も吐かず、職員と力を合わせ本心に頑張ってくれています。ティエンさんにインタビューをしました！

Q. 日本に行きたいと思ったきっかけは何ですか？
A. 日本の文化が好きで、日本の生活を体験したかったからです。

Q. 働き始めた頃の感想は？
A. 慣れない仕事で、最初は多くの困難がありました。覚えることがたくさんあって間違えることも心配でした。でも、皆さんが熱心に手伝って

くれたので、仕事に慣れることが出来ました。

Q. 大変だと思うことは何ですか？
A. 一番難しいのは日本語です。方言が分からず、利用者さんが怒っている時、何をしたらいいのか分からなくなる

ことがあります。
Q. 仕事で喜びを感じる時はどんな時ですか？
A. 利用者さんが笑顔で『ありがとう』と言ってくれた時です。

Q. 自分の性格を一言でいうと？
A. 優しくて朗らか
Q. 好きなことは？
A. 映画鑑賞と、料理が好きです。

Q. 日本で楽しみたいことは？
A. お祭りに参加したり、新しい場所を観光したり、日本の美味しい料理をたくさん食べてみたいです。

Q. 日本で楽しみたいことは？
A. お祭りに参加したり、新しい場所を観光したり、日本の美味しい料理をたくさん食べてみたいです。

